

大雨による農作物等の事後対策について

令和7年(2025年)8月12日

山口県農林水産部

I 水稲

1 冠水

- (1) 水路の補修や土砂除去により、排水路を確保する。
- (2) 冠水が続いている場合は排水に努め、少しでも早く葉先が水面上に出るようになる。
- (3) 濁水の滞留、高水温状態が被害を大きくするので、できるだけ新しい水に入れ替えるとともに水温低下に努める。
- (4) 冠水した稲は一度に完全排水せず徐々に排水し、根に酸素を供給した後に入水する。入水後は、ほ場の水はけの状態に応じて間断灌水の間隔を調節し、根の健全化を図るとともに地耐力の確保に努める。

2 土砂流入

- (1) 稲体の健全化と減収の軽減
土砂が流入した場合は、一旦落水して、根に酸素を供給した後、通常の管理に戻す。
- (2) 土砂の除去と用水の確保
 - ・可能な範囲で用排水路の補修や土砂を除去し、用水及び排水性を確保する。用水路が破損した場合は、ポンプ等により用水を確保する。
 - ・稲が深植え状態となり、酸素不足等による生育遅延が起こるため、可能な限り土砂の搬出を行う。

3 病虫害防除

- (1) 白葉枯病は、冠水すると発生しやすくなるので、常発地のヒノヒカリ等の中生品種では薬剤防除を行う。

4 収穫時

- (1) 倒伏、穂発芽等により品質の低下が予想される場合は、別日に収穫して乾燥調製する等、全体的な品質低下を防ぐ。
- (2) 倒伏した稲の収穫は、倒伏用デバイダの活用や追い刈りを行い、こぎ室内の送塵量の調節を行ったうえで、低速走行で行う。
- (3) 高水分籾の状態では収穫する場合は、作業速度を下げ、とうみ回転を上げ、こぎ室内の送塵量及び揺動部の調節を行い収穫する。
- (4) ほ場内へのごみの流入がある場合は、可能な限りほ場外へ持ち出した後に収穫を行う（コンバインの損傷、収穫物への異物混入の原因となる）。

5 乾燥・調製

- (1) 短時間でも収穫したまま放置していると「発酵米」になりやすいので、収穫後速やかに乾燥作業を行うことができるように、乾燥機の見合った刈取を行う。

- (2) 高水分籾は、通風コンテナによる通風を行う等の品質低下防止対策を実施し、収穫後4時間以内に乾燥を開始する。
- (3) 高水分籾の乾燥にあたっては、高温による急激な乾燥を避け、乾燥温度40℃、適正な毎時乾減率(0.6%/時間)を維持する。
- (4) 倒伏したほ場では青米、茶米、死米、石の混入等が多くなりやすいので、調製を十分に行う。

II 大豆

1 浸水・冠水及び土砂流入

- (1) ほ場に滞水がある場合は、速やかにほ場外に排水する。
- (2) 土砂流入があった場合、可能な範囲で土砂を除去して排水性を確保するとともに、土壌の通気性確保を目的として軽く中耕を行う。

2 病虫害防除

- (1) ほ場が冠水した場合、茎疫病などの病害が発生しやすくなるため、発病株は早めに抜き取るとともに、シアゾファミド剤などで薬剤防除を行う（特に、茎疫病を対象とした種子消毒を行っていないほ場）。
- (2) ほ場が冠水した場合、乗用管理機による薬剤散布の際は、農薬登録の範囲内で散布量を増やし、できるだけ葉の汚れ等を除去する。

III 野菜

1 夏秋トマト

(1) 大雨後の対策

- ①ハウス内に浸水し、滞水している場合は、ハウス外に速やかに排水する。
- ②畦間の滞水によりポリマルチをした畦内が過湿状態になった場合は、マルチを畝肩までめくって土壌を乾かし、畦内の通気性を高める。
- ③根が洗われて露出したり、株元がぐらつくものは軽く土寄せを行う。
- ④土砂が流入し株元が埋まった場合には、土砂を除去したり、流入堆積した表土が乾いて固くならないうちに中耕して通気を良くし、乾燥を促す。
- ⑤下葉除去や摘果により負担を軽減し、草勢回復を図る。
- ⑥浸水被害が大きく、生長点付近にまで泥汚れが付着している場合は、水で洗い流す。ただし、下位節の汚れであれば、洗い流しはやめて土壌乾燥を優先させる。
- ⑦根いたみしている可能性が高いため、土壌条件が改善してから液肥による追肥を開始する。
- ⑧今後の降雨に備えて、排水口の点検やほ場周囲の明きよを設置する。

(2) 大雨後の晴天で、気温が上がった時の対策

- ①根いたみの影響で、生長点や花に萎れや焼けが発生した場合は、腋芽を伸ばし、主枝を更新する。
- ②根いたみにより萎れがひどい場合は、蒸散と吸水のバランスをとるため、葉を強めに除去する。
- ③根いたみが発生した場合でも、灌水・追肥は行うが、施用量は減らす。
- ④生長点や花が枯れた場合は、そこから灰色かび病が発生する可能性があるため、予防防除を行う。

⑤遮光資材等を所有している場合は、遮光資材で被覆する。

2 ホウレンソウ

- (1) 生育が進んだ状態で冠水したホウレンソウは出荷不能であるため、早期に引き上げ、ほ場条件が整い次第播き直しを行う。
- (2) 幼苗は数日間経過を観察し、生育が旺盛であるなら栽培を継続する。
- (3) 栽培を継続する場合、高温になるようであれば、遮光資材で被覆する。

3 その他共通管理

- (1) ほ場に滞水している場合は、ほ場外に速やかに排水する。またマルチを使用している場合で畝内が過湿になった場合は、マルチをめくって土壌を乾かす。
- (2) 風雨等により損傷を受けると病害が発生しやすいため、速やかに適切な薬剤を選定し散布を行う。
- (3) 大雨で根いたみが起こっている状況での高温は、植物体の消耗が激しくなるので、負担軽減のため、摘葉、摘果を強めに行う。
- (4) 生育が進んだ状態で冠水した葉物野菜等は出荷不能となる可能性があるため、出荷不能となったものは早期に引き上げ、ほ場条件が整い次第播き直しを行う。

IV 花き

1 露地花き

- (1) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行う。
- (2) 雨風等で倒れた場合は、速やかに支柱等を補強し立て直す。
- (3) キクやリンドウ、シンテッポウユリ等の露地栽培では、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行う。
- (4) 草勢が落ちるようであれば、回復のために液肥の葉面散布を行う。

2 施設花き

- (1) 施設花きでは、湿度が高くなると、病害の発生、軟弱な生育が多くなるので換気の徹底や循環扇、加温機を利用して湿度低下に務める。
- (2) 不要な枝梢や下葉を取り除き、通風をよくする。
- (3) 灰色かび病などの発生が多くなるので防除を徹底する。

V 果樹

1 浸水、冠水、土砂流入による被害対策

- (1) 園地に停滞している水は排水溝等での排水に努める。
特に粘土質の園では湿害を生じやすいので注意する。
- (2) 流入土砂の除去
園内に土砂が流入した場合は、主として根の分布域を優先し早めに土を除去する。
土が乾燥し機械が入るようになれば浅く中耕し、土壌の通気性、透水性の

確保に努める。

(3) 施肥

落葉等樹体に影響がある場合は、翌年の施肥は少なめに施用し、生育状況を見て追肥で対応する。

流入土砂の土壌分析を行い、酸度矯正等を考慮する。

2 倒伏した樹体の対策

(1) 倒伏した幼木樹で回復が見込めるものは、できるだけ早く起こして支柱で固定する。

(2) 樹体、根の損傷状況を見て、着果が多い場合は摘果し適正な結果量とする。

3 病虫害防除

カンキツ黒点病については、前回薬剤散布からの累積降水量、または散布間隔の基準に照らして的確に防除を行い、その他品目についても防除暦等を参考に収穫前日数等に注意し適切に薬剤散布を実施する。

VI 畜産

1 飼料作物への対応

- (1) 雨水の染み込んだロールベール乾草やサイレージ及び冠水したスタックサイロやバンカーサイロのサイレージ等については品質を確認し、飼料用として適当でない場合は、家畜への給与は中止し、不足分の確保に努める。
- (2) 滞水したほ場は排水溝を掘るなどして排水を促す。また、既存の排水施設に詰まりがないか点検して、排水路を確保する。
- (3) 播種したての草地などで冠水により表土が流失して裸地化した部分が大きいほ場は、イネ科牧草等による追播を早めに行う。

2 家畜管理への対応

- (1) 浸水した畜舎では速やかに排水対策を実施するとともに、舎内等の消毒・乾燥を促進する。また、畜舎内の雨水が引き次第、汚染部分を水洗いして消毒剤や石灰散布、石灰塗布を行う。
- (2) 乾草、サイレージ等の飼料は泥や雨水に当たっていないことを確認して給与する。

VII 農業用機械・設備の動作確認

冠水、浸水の被害を受けた農業用機械・設備は、JA 農機センター、販売店等に依頼して早急に動作確認を行う。

水抜きが出来ていない状態でいきなりエンジンを始動したり、電源を入れたりすると、重大な故障につながる場合があるので個別での確認は行わない。